

山口 敏子 議員

清流クラブ

市内小中学校にユニバーサルデザインのトイレの設置を

問

学校内の設備、特にトイレには格差が生じていると感じている。一般家庭でも洋式化が多くなっている中、和式という理由で子どもたちがトイレを我慢することがないように、健康面からもトイレの洋式化は早急な課題である。

また、後期基本計画の第3章の「健やかでやさしいやとみ」主要施策の中で、「ユニバーサルデザイン」の推進とある。その中には、全ての市民が安全に安心して暮らせる環境づくりに向け、新たに建設する公共施設を中心に可能なものからユニバーサルデザイン

化を推進しますと掲げてある。

現在ある公共施設にも、このユニバーサルデザインのトイレは早急に変更設置が必要だと考え尋ねる。



障害の有無にかかわらず、全ての人にとって使いやすいうようにはじめから意図してつくられた製品・情報・環境デザインのこと。

(1) 日の出小学校、弥富中学校を除いた学校のトイレの洋式化率はどのような状況か。

(2) 現在、市内の学校でユニバーサルトイレの設置をされている学校はあるのか。また、今後の設置計画はあるのか。

まずは洋式化を進めたい

答 教育部長

(1) 洋式化率が低い順番から申し上げる。

十四山中学校16.0%で最も低く、大藤小学校18.8%、栄南小学校22.0%、十四山西部小学校25.8%、白鳥小学校28.0%、弥富北中学校29.4%、弥生小学校31.3%、桜小学校38.0%、十四山東部小学校43.8%である。

(2) 現在、日の出小学校、弥富中学校は設置してあり、桜小学校と十四山西部小学校は車椅子対応のトイレがある。その他の学校については未設置である。

今後の計画は、ユニバーサルデザインのトイレの必要性は十分理解しているが、スペースがかなり必要になることから、大規模な改修となるので、まずは少しでも洋式化を進め、介助棒なども備え対応していきたいと考えている。

校舎内の水道設備の自動水洗化を

問

ノロウイルス対策としての水道設備の改善について尋ねる。

市内の施設では、かなり多くの場所で自動水洗の手洗いが設置されてきたが、子どもたちが生活している学校ではどうか。

また、早急な設置の計画はあるのか。

自動化が少ない学校から優先的に行う

答 教育部長

水道設備は衛生面から自動化が一番と考えている。ノロウイルス対策だけではなく、インフルエンザなど色々な面で有効だと認識している。

21年度に新型インフルエンザ対策として、小・中学校の主にトイレの水道手洗いについて、172カ所の自動水洗化を実施したが、全てではないので、今後は大規模改修や建物の長寿命化整備計画の中で整備していきたい。

その間は、小・中学校で手の洗い方などの指導を徹底していく。



▲小学校の手洗い指導風景